ケース２　しまなみ海道～サイクリングを通した地域活性化～

キーワード：自転車で渡れる橋　サイクリング　ポタリング　自転車新文化

１　学習内容

新しい商品による地域活性化への取組

２　学習目標

自動車で素通りされるだけであった地元観光の名所を観光客が足を止め、ゆっくりしていただくための取組の考察を通して、顧客満足や地域活性化について理解する。

３　学習指導要領において対応する科目、単元および学習内容

「商品開発」

⑵　商品の企画

ア　環境分析

経済動向、技術動向、消費の傾向、消費文化など商品を取り巻く環境について理解させる。また、環境の分析結果を基に、企業が自社の特徴を踏まえて商品開発に関する意思決定を行う過程について理解させる。

エ　商品コンセプトの立案

商品コンセプトを考案することの重要性について理解させる。また、企業内の企画会議で提案することを想定し、市場調査を行い、ブレーンストーミングやＫＪ法などを用いて、商品コンセプトを考案し、商品名、デザイン、キャッチコピー、プロモーションを含めた具体的な商品企画書を作成してプレゼンテーションを行う実習をさせる。

「広告と販売促進」

⑵　広告と広報活動

エ　広報活動の意義と手法

広報活動の意義や役割について理解させる。また、効果的な広報の方法について、企業などによる広報の具体的な事例の考察を通して理解させる。

「ビジネス経済応用」

⑸　ビジネスの創造と地域産業の振興

ウ　地域ビジネス事情

身近な地域のビジネスの動向やビジネスに役立つ資源についての調査や研究を行わせる。また、その結果を基に、地域産業の振興のための具体的なビジネスアイディアの考案、その実現方策の立案及び地域や産業界への提案をする実習をさせるとともに、地域産業の振興への寄与の在り方について考察させる。

４　評価の観点

・しまなみ海道について関心をもち、建設した目的や現状について探求しようとしている。【関心・意欲・態度】

・しまなみ海道を通した地域活性化の取組について理解している。【知識・理解】

・サイクリング以外で地域を活性化させる方法について思考を深め、基礎的な知識と技術を基に判断し、導き出した考えを表現している。【思考・判断・表現】

・地域が活性化し、観光客が増加することついて思考を深め、基礎的な知識と技術を基に判断し、導き出した考えを表現している。【思考・判断・表現】

事例　ケース２　しまなみ海道～サイクリングを通した地域活性化

しまなみ海道（西瀬戸自動車道）は、瀬戸内海の向島、因島、生口島、大三島、伯方島、大島を結ぶ、新尾道大橋、因島大橋、生口橋、多々良大橋、大三島橋、大島大橋、来島海峡大橋の総称で、全長約 80km。このうち尾道から生口島までが広島県、大三島から今治までが愛媛県に属する。

しまなみ海道は 1999 年に全通し、今日では島々の重要な交通路となっている。特徴として、それぞれの橋には歩行者・自転車道が設けられている。今治－尾道間を自転車で快適にサイクリングを楽しむことができることが魅力の一つである。しかし、しまなみ海道が開通した当初は、風光明媚な景観が売りとはいえ、自動車で素通りされるだけの観光地に過ぎなかった。そこで、2007 年に島しょ部の 12 市町村が合併して新たな今治市が発足したころから、しまなみ海道ならではの観光資源である「自転車で渡れる橋」を生かしたまちおこしが住民の間で模索され始めた。

ゆっくり走って島をめぐる「ポタリング（自転車散歩）」の旅で街に滞在してもらおうという提案をもとに島ごとに「自転車モデルコースづくり事業」に取り組んだ。その過程で、自転車旅行者をもてなそうとする地域の人々の島を越えたネットワーク組織「しまなみスローサイクリング協議会」が 2008 年に発足した。これが母体となってＮＰＯ法人「シクロツーリズムしまなみ」が設立された。

出典：wikipedia

シクロツーリズムしまなみの活動は、ポタリングのガイドツアー、しまなみサイクルオアシス、パンクやけがなどトラブル時のサポートを行う「しまなみ島走レスキュー」の運営、自転車を持ち込める臨時列車「サイクルトレインしまなみ号」の運行、サイクリスト目線の「しまなみ島走マップ」の制作など、多岐にわたる。しまなみサイクルオアシスは、民宿や農家、商店、寺院など、しまなみ島走レスキューは自動車修理工場や自転車店、タクシー会社など地元の人たちの参画と協力で成り立っている。

しまなみ海道のサイクリングを通した地域活性化は、より広域に波及している。愛媛県知事が「サイクリングは健康と生きがいと友情を与えてくれる」と『自転車新文化』を提唱した。「愛媛マルゴト自転車道」と称して県内に 26 コースを設定し、しまなみ海道を起点に県全体を「サイクリストの聖地」にすべく、力を注いでいる。数多くのイベントも企画されており、レースではなくサイクリングを楽しむ走行イベント「瀬戸内しまなみ海道・国際サイクリングプレ大会」を開催し、国内外から多くのサイクリストを集めた。本大会ではママチャリでの参加もでき、島と島を結ぶ短距離コースも含めた 10 コースを設け、より地域に密着した国際イベントを開催した。

出典：wikipedea

企業も動き出した。平成 26 年には、ＪＲ四国が「サイクルトレインしまなみ号」の運行回数を年間８回から大幅増便した。以降、春と秋に継続して運行を行っている。平成 25 年には専用列車以外にもあいている時間帯を利用した混乗試験を実施した。また、今治・松山・宇和島各駅で自転車輪行袋のレンタルサービスや、自転車積み込み可能な特急列車の運行を開始した。清涼飲料メーカーのダイドードリンコは、自動販売機で自転車タイヤチューブを購入できる国内初の試みを社会貢献事業として行っている。

自転車の健康への効用にも県として施策を講じる予定である。海外のことわざ「トラック１杯の薬よりも１台の自転車」をキーワードに、アクティブシニアを対象にしたスポーツサイク

ル市場体験と、社会福祉協議会を通じた自転車サークルの普及によって、健康増進・生活習慣病予防・医療費削減を目指している。「自転車の似合う風景づくり」のために、市民参加型の今治市中心市街地活性化協議会サイクル部会の事業として、2012 年は「サイクルスタンドデザインコンテスト」を開催した。全国 126 作品の応募から、自転車を支えている形のユニークなデザインが入賞して、現在、道の駅「伯方Ｓ・Ｃパーク」に設置されている。今後は、しまなみ海道沿線から今治市街地にも設置されていく予定だ。また、シクロツーリズムしまなみはヘルメットの着用や左側通行、並列走行の禁止などルールやマナーを子供たちに伝える「今治自転車人養成講座」などの啓発プロジェクトにも力を入れてきた。

健康・環境・観光・交通の「４Ｋ」それぞれで良いことづくしの『自転車新文化』を「聖地しまなみ海道」を起点に愛媛県から各地に広がっていってほしい。

（参考Ｗｅｂ）「経済産業省　中小企業ＩＴ経営力大賞ポータル　2009年認定事例の紹介」
<http://www.meti.go.jp/policy/it_policy/it-keiei/itjirei/case2009/case_karari.html>

2016/2/1 資料作成

ワークシート

ケース２　しまなみ海道～サイクリングを通した地域活性化～

（　　）年（　　）組（　　）番　氏名（　　）

1　しまなみ海道はどのような目的で建設されたか、述べなさい。　【関心・意欲・態度】

2　現在３本ある本州四国連絡橋のうち、しまなみ海道にしかない特徴を述べなさい。　【知識・理解】

3　しまなみ海道のサイクリングによる地域活性化には、どのような取組が行われてきたか述べなさい。　【知識・理解】

4　このケース以外で、しまなみ海道を活用し、地域を活性化させるためには、どのような取組が考えられるか述べなさい。　【思考・判断・表現】

5　地域が活性化され、国内だけでなく、海外からも多くの観光客が訪れるようになった場合、どのような問題点が考えられるか述べなさい。　【思考・判断・表現】

6　「しまなみ海道～サイクリングを通した地域活性化」を通して、学んだこと・感じたことを書きなさい。　【思考・判断・表現】

ワークシート　解答例

ケース２　しまなみ海道～サイクリングを通した地域活性化～

（　　）年（　　）組（　　）番　氏名（　　）

1　しまなみ海道はどのような目的で建設されたか、述べなさい。　【関心・意欲・態度】

島しょ部の人々の重要な交通路として大きな役割を果たしている。また、本州と四の懸け橋として多くの観光客が来県してくれる懸け橋として建設された。

2　現在３本ある本州四国連絡橋のうち、しまなみ海道にしかない特徴を述べなさい。　【知識・理解】

多くの島々を渡り、８つの橋がかかっている。
自動車道だけでなく、歩行者・自転車用の道路がついている。

3　しまなみ海道のサイクリングによる地域活性化には、どのような取組が行われてきたか述べなさい。　【知識・理解】

サイクリングにスポットをあてて、地域の人々が主体となりくの観光客に来ていただけるようにさまざまな取組が行われてきた。ポタリングのガイドツアーや自転車でのトラブル時にサポートできる体制ができた。また、県や企業の協力を得て、サイクリング大会やサイクルトレインなど、一般の人も気軽にサイクリングを楽しめる環境整えた。

4　このケース以外で、しまなみ海道を活用し、地域を活性化させるためには、どのような取組が考えられるか述べなさい。　【思考・判断・表現】

○　観光の名所となるようなモニュメントや建物を建設する。
○　地元の高校生やボランティア団体などで道の駅などを利用しイベントを行う。
○　多くの人に知ってもらうために、ＨＰの充実やＳＮＳを使った情報発信を行う。

5　地域が活性化され、国内だけでなく、海外からも多くの観光客が訪れるようになった場合、どのような問題点が考えられるか述べなさい。　【思考・判断・表現】

多くの観光客が来ることにより、交通渋滞、宿泊場所の確保、ごみの増加などの問題が考えられる。また、外国人観光客が増加することによって、言語の違いから起こるトラブルも考えられるため、街全体で施設・設備やもてなす地元の人々の教育などが必要になってくる。

6　「しまなみ海道～サイクリングを通した地域活性化」を通して、学んだこと・感じたことを書きなさい。　【思考・判断・表現】